研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-131		17-081	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Association of light-to-moderate alcohol drinking in pregnancy with preterm birth and birth weight: elucidating bias by pooling data from nine European cohorts.

妊娠中の少量から中等量飲酒と早産および出生時体重の関連: 9 つのヨーロッパコホートデータによるバイアスの解明

執筆者

Strandberg-Larsen K, Poulsen G, Bech BH, Chatzi L, Cordier S, Dale MTG, et al.

掲載誌

Eur J Epidemiol. 2017 Sep;32(9):751-764. doi: 10.1007/s10654-017-0323-2.

キーワード	PMID
アルコール、出生時体重、早産、コホート研究	29027084

要　旨

目的：
少量から中等量の飲酒と早産、出生時体重、胎内発育遅延（SGA）の関連を調べた。
方法：
9 つのヨーローッパコホート研究の単生児で出生時体重が 500-6,500g、妊娠週数 22-43 週、妊娠期間に対し妥当な出生時体重であり、データ欠損のない 193,774 人を対象とした。SGA および早産の分析は、妊娠 37 週以降に出生した 184,960 人、妊娠 37 週以前に研究に参加した女性を対象とした。飲酒量（drink/week）は 7 つのカテゴリーに分類された（①0 、②＞0 から＜1、③1 から＜2、④2 から＜3、⑤3 から＜4、⑥4 から＜5、⑦5 から＜6、⑧6 から＜7、⑨≧7)。妊娠期間、出生時体重、性別の情報は医療記録により調査し、2 つのコホートは出生登録と母親から調査した。妊娠 37 週未満の出産を早産と定義し、各コホートの妊娠期間、性、出産歴別曲線の 10%タイル値未満の期間に生まれた幼児は SGA と分類した。早産のハザード比は Cox 回帰モデルを、出生時体重と SGA の推定値は線形回帰とロジスティック回帰を用いて分析した。調整変数は、コホート、母親の教育歴、入院時の母親の年齢、妊娠前 BMI、喫煙、出産歴、移住の有無とした。バイアスの影響を除くため、全サンプルによる関連と、飲酒後 6 か月以内に妊娠した初産の女性のサブサンプルにおける関連を比較するとともに、関連が時間によって変化するか検討した。
結果：
全サンプルにおいて、6drinks/週までの飲酒は非飲酒に比べて早産のリスクが低かった。≧6drinks/週の飲酒では出生時体重が減少し、SGA のリスクが高いが、早産のリスクは増加しなかった。サブサンプルの女性も同様の結果であった。飲酒と出生時体重の関連は、調査期間により変化した。
結論：
妊娠中の飲酒の安全性を調べる検討では、測定に際するバイアスの影響があると考えられる。